

平成28年度 地方公共団体定員管理研究会（第1回）

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成28年6月14日（火） 15：30～17：30
開催場所：総務省内会議室
出席委員：西村座長、浅羽委員、阿部委員、柏井委員、中澤委員、
原田委員、古埜委員

（委員は五十音順）

2. 議事経過

- (1) 田中給与能率推進室長あいさつ
- (2) 座長選出
- (3) 運営及び今後のスケジュールについて
- (4) 自治体の定員管理と参考指標の活用状況について
- (5) 今後の参考指標の改定方針について

3. 意見交換の概要

○自治体の定員管理と参考指標の利活用について

- ・ 定員モデルや定員回帰指標は住民に対しての説明が難しいため、人口規模が同程度の団体と人口あたりの職員数で比較を行っている。
- ・ 定員適正化計画では定員回帰指標を用いて他団体との比較を行い、議会・住民へ説明した。定員モデルについては内部的に参考にしている。
- ・ 参考指標と実職員数を比較した際の乖離について内部で議論をしたが、説明が難しく、最終的には類似団体の平均を上回るよう目標を設定した。
- ・ 参考指標として類団を使っている団体が多いとのことだが、類団も定員モデルも平均と比較するということで基本的には同じものである。定員モデルの方が数字はきれいにでる。

○今後の参考指標の改定方針について

- ・ 参考指標をもう少し自治体の方々に使ってもらえるように説明変数の単位の取り方に工夫が必要である。定員回帰指標についていえば、なぜ人口、面積を使うのかということをもっと説明すべきである。
- ・ 定員モデルで時系列的なファクターをいれていくことはあり得ると思うが、重回帰分析は特定の時点のスナップショットであり、平均の数値であるため、どこまで下がったらいいか、といった規範的な答えを出すことはできない。
- ・ 民間委託等の影響の仕方もいろいろなパターンがあり得るため、どの統計をモデルへ反映していくか。

- ・ 民間委託等の実態を把握するのは困難であり限界もあるので、行政向けなのか、住民向けなのかも考慮してどこまで精緻に行うのか検討する必要がある。
- ・ 参考指標の限界や特徴を整理し、どの程度の精緻化なら説明責任を果たすうえで使いやすいか、納得されやすいかという折り合いをつけていかなければならない。